

「人生を謳歌できるか」

ダイキン工業株式会社
化学研究開発センター

神原 將

私は博士前期課程の間、応用化学専攻でお世話になった後、2011年4月よりダイキン工業株式会社で働いております。「ダイキン」という名を聞くと、エアコンや空気清浄機を思い浮かべる方が多く、空調メーカーのイメージが強いかと思います。しかし、実はれっきとした化学メーカーでもあり、私はその化学部門の研究員として勤務しております。弊社の化学部門は、フッ素化学を専門としており、フッ素樹脂やフッ素ゴム、夏の節電対策に有用な遮熱塗料などの製品を取り扱っています。

現在、一年間の実地研修が終了したところで、今まさに、新たな職場での研究業務が始まろうとしています。本稿では、その一年間の実地研修を振り返って感じた事項三点について述べさせていただきます。

まず一点目は、「大学・大学院の研究室での経験が、企業においても非常に役立っていること」です。学生時代とは研究内容がまるで異なっていたこともあり、当初は学生時代の経験が役立つとは、あまり考えていませんでした。しかし、3年間の研究室生活をそれなりに真剣に取り組んできたことで、自身の土台となるものが知らず知らずのうちに形成されて、その土台が現在の私を強く支えてくれているように感じます。

例えば特に役立っているのが、「細部まで丁寧に考察することで、本質をつかもうとする姿勢」です。この姿勢は、化学反応のメカニズムについてしっかりと考察しながら、新たな触媒反応を探索する研究室に所属したことで身に付いたものです。“触媒”は原料や生成物に対してごく少量しか使用しません。そのため、“触媒”は化学反応にとって、ある意味では“細部”であると言えます。しかしながら、研究室では皆、この“細部”である“触媒”の設計に徹底的にこだわっていました。何故ならば、“触媒”の性質が少し変化するだけで、反応が劇的に進行するようになるケースが見受けられるためです。つまり、「触媒」という“細

部”の事項が反応の“本質”に関わっていること」を、無意識のうちに理解するようになったため、「“本質”につながる“細部”の事項をおろそかにしない」姿勢が身に付いたのです。

このように大学・大学院の研究室で真剣に取り組んだことは、何らかの形で糧となるものではないかと感じます。日々熱心に研究に励んでおられる学生の皆さんには、ぜひ自信を持って産業界に打って出て頂きたいと思います。

二点目は、「積極的に外部に出て行くことが重要であること」です。先ほどの事項とは逆に、これは企業に入ってから気づかされたことです。上司の方針もあり、この一年間は、社外に出て行く機会を多くいただきました。その内容は、学会や展示会、共同研究、そして取引先への訪問と多岐にわたり、それぞれが私に良い影響を与えてくれました。例えば学会で拝聴した講演がきっかけとなり、自身の研究テーマに関するアイデアを思いつくこともありましたし、共同研究では、他社から派遣されている研究員のレベルの高さに驚くとともに強い刺激を受けました。

このように外部に出て行くことで受ける影響は、企業の研究者にとって非常に重要なことではないかとつくづく感じています。

一方で恥ずかしながら、学生時代の私は学会に参加することを嫌う傾向にあり、自身の行う発表以外にはあまり興味を持っていませんでした。しかし、今では非常にもったいないことをしていたと感じます。一般的にも、前期課程を終えて就職される学生さんは、後期課程へ進学される学生さんと比較して、学会での講演に興味薄い傾向があるのではないのでしょうか（もちろん熱心な方もおられるのですが・・・）。しかし、前期修了で企業に就職される方も、積極的に学会に参加し、時には他の分野の講演を覗いてみるのも、為になると考えます。例えば化学系の学生さんであれば、

年度末の年会などは、様々な分野の講演を気軽に聴講できるため、ぜひ有効に活用していただきたいと思います。

三点目は、本稿のタイトルと関係しています。私が慕う数名の先輩社員は、胸を躍らせながら彼ら自身の立ち上げたテーマに没頭しており、まさに人生を謳歌しています。辛いこと、苦しいことも研究にはつきものですが、「どうせ頑張るならば、わくわくしながら前向きに取り組んで人生を謳歌したい。」と思うようになりました。この様に考えるきっかけを与えてくだ

さった方々と出会えたことは幸運であり、感謝の念に堪えません。

以上、簡単ではありますが、一年間の実地研修を振り返って感じる事項について述べさせていただきました。今後とも本学・工学研究科で行った研究活動を誇りとし、精進してゆく所存でございます。

最後になりましたが、この様な寄稿の機会を授けてくださった恩師・生越専介先生に御礼申し上げます。

(応化 平成 21 年卒 23 年前期)

❖❖❖ 年会費納入はお早めに !! ❖❖❖

平素は、会費納入にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

年会費会員の皆様には毎年テクノネット4月号に、郵便局の『払込取扱票』を同封しておりますが、未納の皆様にはテクノネット送付の都度『払込取扱票』を同封することとなりますので、コスト削減の観点からもできるだけ早い時期に納入いただきますようご協力をお願い申し上げます。

また、2年間会費の納入がない場合は、会費規定により、会誌の送付を停止させていただきますのでご注意下さい。

年会費会員のみなさまへ 免除会員のお知らせ

平素は会費納入にご協力いただきありがとうございます。

年会費会員の方は卒業後50年経過すると会費免除となります(会費規定第6条)。

平成24年度より昭和37年卒業の会員の皆様が、免除会員となりました(会誌送付や諸行事への参加等今までと変わりはありません)。

今年から免除になられた皆様、及びすでに免除になっておられる会員の皆様には、長い間の会費納入誠にありがとうございました。今後も工業会へのご支援・ご協力のほど宜しく願いいたします。

昭和38年卒業の会員様におかれましては、本年度の会費納入をもって免除会員となります。

お忘れなく納入下さいますようお願い申し上げます。